

笑顔で学ぶ

久留米市教育委員会発行
No. 5 (平成24年7月)

くるめっ子通信

家庭・地域と学校の連携

- ・ゲストティーチャーが大活躍
- ・親子レクで交流
- ・地域の力で安全・安心
- ・夏休みは手伝いのチャンス



家庭・地域と学校のふれあいを育んでいます

大城小学校では毎年2年生が生活科の学習で、地域の田んぼを借りて「米づくり体験活動」を行っています。子どもたちが、農家の指導を受けて田植えや稲刈りを体験することで、自然の豊かさや、食の大切さを学びます。

子どもたちは、田んぼの中の土や水の感触に驚きながら、初めは慣れない手つきで苗を植えていましたが、終わる頃には「もっと植えたい。」といった声も聞かれ、楽しみながら学習できました。秋の稲刈りの後には、学校でおにぎりパーティを開き、地域や保護者の皆さんを招いて感謝状を渡す予定です。

その他の学校でも、子どもたちが楽しみながら学習や運動などに親しみ、健やかに成長できるように、花の世話や廃品回収、レクレーションなど、家庭・地域と学校が連携した取り組みが行われています。

～ 地域学校協議会を開催 ～



久留米市の全小中学校では、家庭・地域と学校の代表が集まって子どものよりよい成長のために、それぞれができることを話し合う地域学校協議会を開催しています。

写真は6月に日吉小学校で行われた第1回の地域学校協議会の様子です。家庭・地域と学校の代表である13名の委員が、学校の教育改革プランについて熱心に協議しました。今後は、話し合われたことを生かして、子どもたちのために活動していきます。

「家庭・地域と学校の連携」のために

★市では、「笑顔で学ぶくるめっ子」に向かってを教育改革の目標とし、平成 23 年度から 26 年度までの計画である「第2期教育改革プラン」を策定しています。

★「教育改革プラン」では、「健やかな体」の育成、「豊かな心」の育成、「確かな学力」の育成、「家庭・地域との連携と学校力の向上」を具体的目標として、取り組みを進めています。

★家庭・地域と学校が連携・協働し、一体的に子どもたちの教育の充実を進めるため、家庭・地域の教育力の向上が必要です。

★「教育改革プラン」における家庭・地域の主な役割を紹介します。

具体的目標 1 「健やかな体」の育成

家庭・地域の役割

- ◆運動や外遊びを親子一緒に取り組んだり、会話をしたりすることによって、生活における健康増進への意識を促進する。
- ◆地域の体育的活動や食に関わる活動の充実を図り、家庭で積極的に参加する。



具体的目標 2 「豊かな心」の育成

家庭・地域の役割

- ◆基本的な生活習慣や礼儀・マナー等を身につける取り組みを徹底する。
- ◆道徳性を育む地域での交流や体験活動を行う。



具体的目標 3 「確かな学力」の育成

家庭・地域の役割

- ◆家庭での基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習習慣を確立する。
- ◆子どもの学力の状況を把握し、よりよく学ぶための支援を行う。



具体的目標 4 「家庭・地域との連携と学校力の向上」

家庭・地域の役割

- ◆子どもの教育に関して学校との連携・協働を深める。
- ◆PTA活動や地域活動に積極的に参加する。
- ◆「地域の子どもは、地域で育てる。」という考えを大切にして学校と連携する。



家庭・地域と学校が連携した取り組み

ゲストティーチャーが大活躍



城島小学校のクラブ活動では、地域の皆さんをゲストティーチャーとして招き、担当の先生と一緒に子どもたちが活動しています。

子どもたちは「地域の先生は詳しく親切に教えてくれます。」と毎回楽しみにしています。また、地域の皆さんは「生きがいです。自分が役に立っていると感じます。」と子どもに負けない笑顔でした。

地域と学校が連携した授業は、子どもたちの郷土愛の育成を図り、地域の皆さんが生き生きと活動できる取り組みとなっています。

親子レクで交流

市内の各学校では、保護者が、夜間パトロールや学校行事の際の警備や親子レクレーションなど、様々な形で学校に協力しています。

牟田山中学校の「おやじの会」では、毎年親子球技大会が実施され、生徒・保護者・教師が一緒になって、時には真剣に、時には笑顔で、はつらつとした汗を流しています。

このような活動を通して、子ども、保護者と学校がそれぞれの関係を深めることで、よりよい学校づくりに努めています。



地域ので安全・安心



市内の各小学校では、登下校の安全指導が行われています。

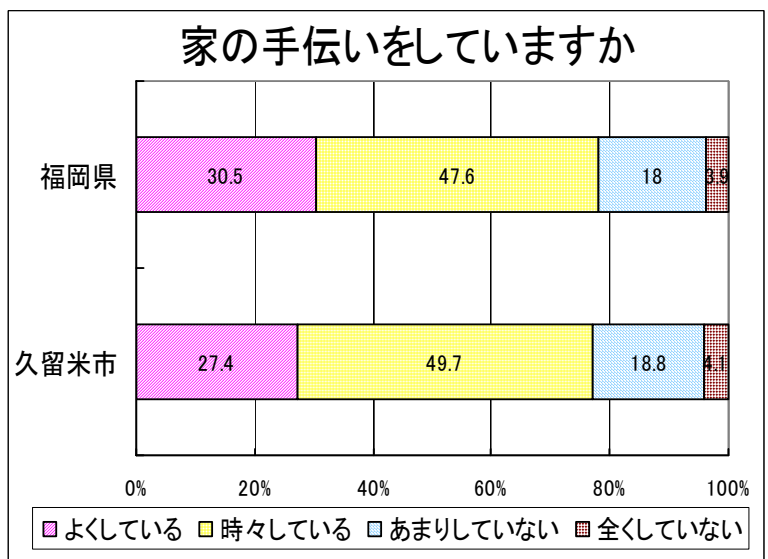
写真の水分小学校区でも、子どもたちが下校する時間帯に、地域の皆さん（シルバー保安官や保護者）による見守り活動が行われ、子どもたちの安全を守り続けています。

子どもたちは、多くの地域の方々に見守られているという安心感の中、安全に気をつけながら、元気に学校に通っています。

夏休みは手伝いのチャンス

電化製品の多機能化やライフスタイルの変化により、子どもたちが家の仕事を分担したり、手伝いをしたりすることが少なくなっています。右の表からも分かるように、家の手伝いを「よくしている」という子どもの割合は3割を下回っています。

その結果、手伝いを通して自然に身につけてきた家族の中で役割を果たすことの大切さや、生活に必要な技術を身につけることなど、社会生活を営む上で大切なことを学ぶ機会も減っています。もうすぐ夏休みです。子どもが家庭で過ごす時間が増え、手伝いを始める絶好のチャンスです。



平成 23 年度 福岡県学力学習状況調査 (小学校 6 年)

小学校低学年では

- 家族の靴を並べる
- 洗濯物をたたむ

小学校高学年では

- ゴミ出しをする
- トイレ掃除をする

中学生では

- 家族にご飯を作る
- 洗濯物を干す



「いつ」、「何回」など、どのように取り組むかを工夫したり、取り組んだらシールを貼って評価したりしながら、楽しく長く続けていくようにしましょう。

「お手伝いのすすめ」

久留米市学童保育所連合会事務局
次長 橋本 英作



夏休みを目前にしたこの時季に、お手伝いの意義について考えてみましょう。

1 子どもの自信ややる気を引き出す

家族の役に立つお手伝いの体験を積み重ねることで、子どもは「自分にもできた」という達成感や満足感を味わい、自信ややる気をもつようになります。

2 自己肯定感をはぐくむ

家族からほめられたり感謝の言葉をかけてもらったりすることで、自分は、大切な存在なんだという自覚（自己肯定感）をはぐくむことができます。

3 人のことも大切にする子どもを育てる

お手伝いを通して、自分はなくてはならない大切な存在だと気づき、人がしてほしいと思っていると感じ取って、手助けすることができるようになります。

4 保護者も成長できる

お手伝いをしている子どもの姿を通して、保護者は家族の一員としての子どもの存在をあらためて意識し、これまでの我が子に対する見方や接し方を振り返るきっかけにすることができます。

■久留米市教育委員会事務局 教育部総務・学校教育課

〒830-8520 久留米市城南町15番地3

TEL 0942-30-9213 FAX 0942-30-9719 E-mail:kyousou@city.kurume.fukuoka.jp